



◆2月の歳時記◆

『明治大正時代のキラキラネーム』



「姓名の研究」

明治八年二月十二日、すべての国民に姓を名乗る事が義務づけられました。既に五年前に苗字をつける事は許されていたのですが、当時の庶民は何やらこの制度に不信感を抱いていたようで、なかなか浸透しなかったようです。今のマイナンバーカードと似ていますね。笑 これを機に多くの庶民たちが大慌てで苗字をつけたイメージがありますが、実は以前から多くの庶民には苗字があったものの江戸時代に名乗る事を禁じられ、この制度で晴れて苗字を名乗れた者も多かったようです。それにしても名前を付けられるなんて千載一遇のチャンスー平凡な名前ではなく近衛とか鷹司とか御公家さんのような名前を付けてくれれば良かったのにならと、ご先祖様を恨んだりして・・・笑

さて名前という点、ひと昔前に世の中を騒がした「悪魔」くんや「王子様」くん(どちらも後に改名)。また最近の「キラキラネーム」も何かと話題になっていますが、これって現代だけの風潮ではなく、昭和四年に刊行の荒木良造著『姓名の研究』を読めば、明治大正時代にもあったキラキラネーム？に仰天します。

たとえば、日本一長い苗字と言われている「左右衛門三郎(さえもん さぶろう) 虎吉右衛門」さん。この方、鼻歌を警官に咎められ、正直に名を名乗ったところ、ふざけんな！といきなり殴られたという悲惨なエピソードをお持ちです。泣

また名前では「澤井 磨女鬼久壽老八重千代子(まろめきくすろやえちよこ)」さん。神官だった父親がやっと授かった子に考えていた名前を全てつけたそうですが、この方、大阪府四条畷市で二〇〇三年、九十一歳でご健在だった事が判明しています。

また宮崎県の「高倉 田子の浦打で、見れば白妙」さん。これって、あの有名な山部赤人の歌、そのままですよ。汗 その妹が「高倉 富士野高嶺」さんという嘘のような本当の話。

また、父親が役所で書類の書き方を注意され、一行だったらいくら長くてもいいんだなと腹立ちまぎれに付けた「清水 子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥太郎」さん。なんと十二支全部・・・泣 また姫路の軍隊にいた「江田 富士二三四五左衛門助太郎」さん。いくら軍人さんでもこれ

は酷い！
最後は、高知市の「浦」さん一家。主人「渡川わたる」妻「なみ」長男「魚一籠」といちらう」次男「蝦二籠」えびじろう」長女「ます」次女「きす」三女「いそ」・・・汗 まさに「サザエさん一家」汗。



『竜進』誕生秘話！

コロナ禍、少しでも四季を感じて頂きたいと様々な『設え』が登場しましたが、特にその年の干支が登場する元旦風景は今やパストラル尼崎の風物詩となっています。さて今回は、今年の干支『竜進』の誕生秘話をご紹介します。作家であるスタッフHの構想が決まったのが12月。そこからH宅のリビングは修羅場と化します。まずパンストにシュレッダーのゴミをソーセージ状に詰めます。そのソーセージ？とダンボールの破材でボディを形成。その頃、事務所のシュレッダーは空っぽです。笑 ボディのうねりはクリーニングのハンガーを曲げソーセージ？で肉付け。そこに細くした新聞紙を貼り、紙粘土を薄く平らに延ばします。乾いたら紙やすりを掛けヒビの入った部分は特殊な絵の具で埋めます。ここをサボると美しく仕上がりません。そしてやっと着色。何といても一番の難関は龍の顔。悩みに悩んで出来上ったのは龍本来の顔「らくだ」。しかし天を衝くように伸びた鬚は重みで垂れ、せっかく描いたウロコは断念。ヒレも何度も試作したりと『竜進』完成までの道のりは苦難の連続でした。そんな彼女の作る作品は、毎年どれも優しげで元旦から何だか幸せな気分してくれるのです。(F)

令和5年度

パストラルシニア大学

今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けしています。講師陣からその受講姿勢を絶賛されていた皆さま。今年も皆勤賞めざし頑張りましょう。

* 毎回フロントにお申込み下さい(席に限りがあります)

* 当日は、学生証も忘れずに！

第9回

「お悩み解消！靴の選び方」 同時開催(足型測定と靴の展示)

・日時：2月9日(金) 時間、場所等ポスターにて

・講師：アサヒシューズ

若い頃と違って様々な足の問題を抱える高齢者！自分の足の形状を知った上で、どんな靴が自分の足に適しているのかを知る機会です。講演とともに「足型測定」と靴の展示(販売なし)を予定しています。